

天理市長はじめ天理市民のみなさま、  
ご支援いただいた多くの企業・団体のみなさま、

昨年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻。侵攻当初は、すぐに終わるのではないかとおりましたが、戦火が厳しくなるなかで私は 2 人の子どもたちのいのちを守るために準備をするまもなく母国ウクライナを離れ隣国に避難しました。大変な避難生活をおくっていた際に、第二の故郷であり母校である天理大学から、天理市と協力してわれわれ家族を受け入れて下さる準備があることをお知らせいただき、昨年 4 月に天理に来ました。

みなさま方の温かいご支援のおかげで安心して天理市で生活でき、子どもたちははじめての日本での生活に慣れていくなか、私は 6 月からは天理大学の嘱託職員として留学生の支援業務を担当してきました。最近、さまざまな機会を頂いて、ウクライナの歴史や現在の状況などをおはなしすることができました。

天理に来る大きな目的は子どもたちのいのちを守ることでした。1 年近く経ち、2 人の子どもたちはそれぞれ天理で大きな支援を得て成長し、自分の人生を考え、次のステージのためにヨーロッパに戻りました。私にはウクライナで老いた両親がさまざまな事情から厳しい生活を強いられながら生活しています。子どもたちが次のステージに移った現在、私も両親の支援と生活の再建のために戻ることになりました。

みなさんの本当に温かいご支援によって、私たち家族はゆっくりと心を落ち着かせることができました。天理での生活は安全安心の日々でした。それは本当にありがたいことで、次のステージに移るための冷静な判断をすることができました。心からお礼申し上げます。私たちはウクライナでの生活基盤の再建はこれからですが、ご支援いただいたみなさまのご恩を忘れることなく、前に進んでいきたいと思えます。

現在、天理大学にはキーウ大学からの 9 人の避難学生がお世話になり、これからも学びを継続することができま  
す。彼女たちがこの天理で学びが継続できることに、私からもお礼を申し上げたいと思えます。私はウクライナの地  
から彼女たちと連絡を取りつつできる限りサポートを継続いたします。みなさまがたも引き続き、ご支援いただ  
ければ幸いです。

母国ウクライナは、戦火は止まずまだまだ厳しい状態ですが、いずれは終わります。そのときは是非ウクライナの再  
建再興のためにみなさま方のご支援をよろしくお願い致します。

昨年 4 月から 1 年の間で、第二のふるさと天理において自分を取り戻せたこと、次のステージに踏み出せたこと  
に、みなさま方に心から深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

そしてこれからもウクライナへのご支援をよろしくお願い致します。

オクサーナ・コベリャンスカ

